



僻地小規模中学校における「社会的判断力」育成を重視した社会科授業の構想：
単元「地方自治」(中学3年公民的分野)での「市町村合併問題」の場合

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学へき地教育研究センター 公開日: 2010-03-21 キーワード: 作成者: 鈴木, 義樹, 安藤, 豊 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00009845

僻地小規模中学校における「社会的判断力」育成を重視した社会科授業の構想

単元「地方自治」(中学3年公民的分野)での「市町村合併問題」の場合

鈴木 義 樹

(苫前町立苫前中学校教諭)

安 藤 豊

(北海道教育大学教授旭川校)

A Plan of Social Studies Lessons to develop of Social Judgement Ability : in Rural Small Junior high School A Case of Learnnig “Local Authorities Systems”

Yosiki SUZUKI and Yutaka ANDOU

はじめに 問題の所在にかえて

社会科の教科目標は、周知のように「公民的資質の基礎を養う」とされている。そしてその構成要素は、一般に、学習指導要領の各学年の目標として分かち書きされている「理解(知識)」「態度(価値)」「能力」であるとして大きな批判を受けることはないだろう。たとえば、この「公民的資質の基礎を養う」との文言が本格的に用いられるようになった昭和44年(小学校は昭和43年)中学校学習指導要領に関する指導書社会科編は、これを大略次のように説明していた。

すなわち、①国民主権の原則にふさわしい国民になるうとする自覚、②自分たちが地域社会及び国家の担い手であるとの自覚とその発展に尽くそうとする態度、③これらの自覚にもとづく政治・経済・国際関係に関する豊かな教養、④自由と権利と社会的責任・義務についての正しい認識、⑤これらの認識にもとづいて権利・義務の主体者として自主的に行動するための諸能力。

この説明から読み取れるように、日本国家の形成者、つまり、その秩序を保持し、運営責任を分担し、その発展に尽力する国民を育成するために、それにふさわしいあるべき知識・態度・能力である「公民的資質の基礎」を学習者の中に育てるのが社会科の目標となる。

この三つの構成要素(あるいは小目標とでもいえるようか)は、いわば三位一体として、相互に関連しあっていると見えよう。たとえば、反社会的な知識や反国家的な知識が一方的に学習者の中に蓄積されると、反社会的、反国家的な判断や反社会的、反国家的な心情・態度を醸

成するのは容易に想像できるし、その逆もまた同様であろうから、このことは自明であろう。このとき、社会そのものや社会的言説空間の中で事実と価値は密接に融合しているのだから、どのような「知識」も「価値」から自由ではないのである。この意味で国民教育の目的は次世代の国民の中に「よい知識」を蓄積することであろう。

ところで「社会的判断力」とは、平俗にいえば、社会に生起している種々の問題に適切な判断ができる能力のこととしておいてよいであろう。そしてこの教育概念がそれとして学習指導要領に明記されたのは、先にふれたように昭和43年、44年学習指導要領のおいてであった。

そこでは次のようにされていた。

昭和43年小学校指導要領社会は、総括目標に「公民的資質…」を定式化するとともに、目標(1~4)の4番目に「社会生活を正しく理解するための基礎的資料を活用する能力や社会事象を観察したりその意味について考える能力をのばし、正しい社会的判断力の基礎を養う」と規定した。

また、昭和44年中学校学習指導要領では、総括目標のもとに示された1~3の具体目標の3番目に「経済・社会・文化などが急速に変化発展している日本や世界の現状に目を開かせ、さまざまな情報に対処し、確実な資料に基づいて公正に判断しようとする態度とそれに必要な能力の基礎をつちかう」と規定した。

そして、中学校における「公正に判断しようとする態度」は、小学校の「正しい社会的判断」と同義であると説明された。

このような文言はこれまでの指導要領にも散見され

た。たとえば、戦後社会科教育課程のエポックとなった昭和30小学校指導要領は「社会生活に対する正しい理解を得させることによって、児童の正しい判断力の基礎を養い」としていたし、昭和33年は「社会科は、社会生活に対する正しい理解を得させることによって、児童の道徳的判断力の基礎を養い、...。」とされていた。また中学校では、昭和33年の歴史分野、公民分野の目標に「公正な判断力」との文言が見える。

このような文脈で考えれば、ここでいう「正しい社会的判断」「公正に判断しようとする態度」との文言は、「正しい」「公正」に力点があったと解釈できよう。

しかし、その後、一般的な能力類型として説明され、この点がそれとして重視されなかった。

たとえば、この時の小学校指導書社会編は次のように説明していた。

「社会科という教科で、欠くことのできない能力、積極的に伸ばしていかなければならない能力の示し方は、おそらくいろいろな立場があろう。新学習指導要領では、一応これを、観察力、思考力、資料を活用するする能力という三つの類型でおさえ、これらの能力が総合されて正しい判断ができるようになることを考えたのである。そして、この考え方を.....目標の4として示したのである」(同書 p. 4, 大阪書籍, 昭和44年)。

また、中学校指導書社会は、「いわゆる情報社会化に対処する能力.....その情報源を確かめたり、情報の客観性や限界を明らかにしたりなどして、公正な判断を下し自己の行動を決定すること、あるいは必要な情報を探索して利用することなどが含まれる.....」(同書, pp. 12-13, 大阪書籍, 昭和45年)と解説していた。

一方、この学習指導要領の改訂を担当した小林信郎は、一般化した表現を使えば、観察力、思考力、資料活用能力の総合された能力であると述べ(同氏『社会科研究入門』p. 36, 明治図書, 1969), 同じく担当官であった山口康助は、これを社会生活を正しく理解する能力とし、その要素を観察能力、資料活用能力、社会事象の意味をとらえ考える能力と解説していた(同氏「創造的思考と社会的判断力」p. 112, 『社会科教育』No. 102, 明治図書, 1973年1月)。

このようにこの段階での「社会的判断力」概念は、能力目標に包含され、自覚が薄れたとはいえ「正しい」「公正」にも意味を持たせていた。先回りして指摘すると、このような概念内包の「社会的判断力」は、この段階では社会科の目標要素である能力目標の構成要素として提起されたものであり、この限りで、江口勇治が、これを「『公民的資質の育成』の具体的、代理的表現であった」とするのは言い過ぎであろう(「社会的判断力」p. 74, 『社会科教育指導用語辞典』, 教育出版, 1986)。

ところで、そしてこのような意味内容が、今日の学習

指導要領に正しく引き継がれていないように思われる。

たとえば平成10年中学校学習指導要領は、従前通りに「公正な判断」を各分野ともその目標(4)能力目標に位置づけて記述している。そして、担当教科調査官であった洪澤文隆が、この改訂のポイントとして次のように解説しているように、学習者の判断の帰結の適正さに対する評価意識の希薄性は一層進んでいると読みとれる。

「今回の改訂は、端的に言えば、公民的資質の育成をめざすという本来の社会科の姿を取り戻し、『生きる力』をはぐくむ社会科学習を推進することができるようにするということであろう。それには、社会科の特質を考慮すると、答えが必ずしも一つに帰結するとは限らない社会的事象を学習対象にして、問題解決的な学習などを取り入れ、集団討議の場を重視して展開し、多面的・多角的に追究する問題解決能力や公正な判断力、そして社会性などを育成することがポイントになるだろう」(佐伯真人・大杉昭英・洪澤文隆『新中学校教育課程講座〈社会〉』p. 28, ぎょうせい, 2000)。

このようなこと背景に、この昭和40年代改訂で能力目標として「社会的判断力」が提起されたのを契機に、「公民的資質」=「社会的判断力」とする潮流が生まれたことを指摘できる。精査したわけではないが、管見の限り、この潮流の早い時期に属するものとして森分孝治の社会的判断の類型論を挙げることができよう。森分は、社会的判断力を仮に「社会的事物・事象について、一つの判断に到達する能力である」と定義し、一般化された「判断」概念を持ち込み、主に社会認識を射程に入れた社会科教科構造論の構築を試みた(森分孝治「知識・理解力と社会的判断力との関連」『教育科学 社会科教育』No. 101, 明治図書, 1971年1月)。

たしかに、ある社会的事象が「事実」であると認識主体が認識するのは「判断」であるし、「事実A」と「事実B」の間に何らかの関係性の仮説を立てたり、因果などの或る関係性を認めるのも「判断」である。これらは論理学では定言的判断とか、選言的判断とかよばれる思考形式である。そしてそれらの「判断」には多かれ少なかれ必ず嗜好や選好、公共善などの「価値」が伴うから人の社会認識(知識)は、「価値判断」と縦軸にすると、その社会性の強弱によって、類型化というより系列化することが机上では可能ではある。

そしてこのような社会的判断力育成を最終目的とする社会科目標論が、社会科教育の世界で一つの有力な潮流を形成するようになった(最近ではたとえば片上宗二「二一世紀の社会科教育実践の課題」溝上泰編著『社会科教育学実践学の構築』所収, 明治図書, 2004年, など)。

この「公民的資質」=「社会的判断力」論を論じるのが本稿の目的ではないので深入りしないが、この議論は、

「公民的資質」＝「理解・態度・能力三位一体」論の側から見れば、「判断」概念の不当な拡大であると評せよう。結論だけを手短かに述べる。該論では不当に拡大された「判断」という能力目標が他の2つの目標を従属する構造になるが、この「判断」という営みは、その基準が嗜好や選好であれ、国益・地球益などの公共善であれ、いずれにしてそれ自体価値的な行為なのだが、そうだとすればそれは個人の内部における思考操作であり、したがってそれは個人の内部基準による選好判断・価値判断に依拠する確率が高く、その結果、個人（学習者）の内部に蓄積される社会認識は、敢えていえば恣意的な知識の蓄積となる可能性が高いことになり、「よい知識」の蓄積の障害になる可能性があるといえよう。換言すれば、該論では、国民教育の目的に適合する社会認識（知識、つまり望ましいと思われる公共善）の蓄積が考慮されないことになってしまうのである。教える知識の質を吟味する回路が閉じられていることになるのである。現在社会科授業を蔽っている価値相対主義的傾向の淵源がここにある。「正しさ」「公正」は時代とともに変化するとしても、ここにも「不易と流行」があるはずであり、それを考えるのが国民教育の立場であるはずである。

このようわけで、「公民的資質」＝「理解・態度・能力／三位一体」とする学習指導要領に依拠して「社会的判断力」を位置づける立場からは、これもまた本稿の直接の課題ではないので指摘だけに止めるが、授業者の側から与える知識の質の吟味を前提にしながら、学習者の判断の結果の「正しさ」性・「公正」性を吟味して適切妥当な判断に導く学習過程を構築することが要請されることになる。要するに、学習者の判断結果を価値フリーにするべきではないということである。

さて、本研究では、以上述べてきたことを一旦離れて、僻地小規模中学校における社会科授業で「社会的判断力」の育成を試みるものである。「社会的判断力」育成には、多面的・多角的追究を実現するために集団討議の場が必要とされるが、そのような集団的討論成立の条件が少ない少人数学級においてそのような多面的・多角的追究を可能にするどのような学習過程が構想できるのか（できないのか）を実践的に検討するものである。

1. 授業構想の基本方針と学習過程

本研究が課題としている「社会的判断力」を、とりあえず、「社会科教育課程（学習指導要領）」に位置づけることができる社会問題（社会的論争問題）に対して、人々の幸福を確保し増進する方向で、公正かつ妥当な解決策（政策）を選択したり、立案することができる能力」としておこう。このより良い解決策の選択・立案はすぐれ

て価値的営為であることはいうまでもない。

この学習プロセスは、一般的に、学習者に社会的論争問題や価値葛藤、選択におけるジレンマを含む問題場面を提示し、その問題の性格や発生の背景・原因、争点や利害関係の配置等々、その問題状況を考察・理解させ、集団的議論を通して、その問題の解決のための最も合理的な政策を個人レベルあるいは集団レベルで選択・提案（政策選択、あるいは政策創造）させることになる。この過程で学習者は、事態を知るために必要な情報収集などの活動の種類や行為とそのマニュアル、判断や意思決定（個人あるいは集団）という思考活動の手続きや判断形式などを知り、それらを体験的に学習することを通して能力を向上させていく。

ところで、ここで集団的議論とは、一般社会では当該の社会的問題を巡る個々人の嗜好や選好、利害感情や利害勘定、公益・国益や地球益などの感覚や了解程度などの価値観の差異に発する当該問題の了解内容や判断・意思決定の差異を表出させることによって、当該の社会的問題を多面的・多角的な追究・検討を保障し、個々人の判断を革新・深化させるとともに、当該集団としての判断をも革新・深化させつつ、それを調整し、妥協の筋道を見出し、妥当であるという限りで合理的な解決策（政策）を形成する手続き・手段として機能する。授業での学習者は価値観の差異の幅や切実性、深刻性に温度差があると思われるが、事態は同じであると理解してよいであろう。

しかしながら、多面的・多角的な追究・検討のために集団的討議の場が必須条件であるのかといえ、そうではない。それは個人の内部においても可能なことであるからである。仮想的に或る利害や価値的立場に立つことによって、その立場から当該社会問題を把握し、解決策を検討することは、よく思考訓練うけた個人には可能なことである。それは研究者や評論家、政治家や官僚などの政策立案者、よく考える一般国民などはもとより一般の諸個人が通常行っている思考営為である。典型的にはディベート教育がそうであるように、自分の判断とは異質の強いられた立場に立ち、その立場から論理を組み立てる思考訓練は、「正しい」「公正な」判断能力の育成に不可欠であろう。

通常、少人数学級では集団的討論を保証することが困難であり、そのため社会的問題の多面的・多角的な追究・検討が困難あると思われるがちである。しかし、上のように考えると、そのような条件下でも、あるいはそのような条件下であるからこそ、高度な思考訓練、判断訓練が可能であるといえるのである。

つまり、或る提案や選択肢、プランへの支持表明者で学習班を組織するのが通常であろうが、少人数学習集団では支持表明が偏在し異なる意見間の討論を組織するこ

とが困難である。そこで本授業研究では学習者個々人や学習集団各々の選択・意思決定（本心・本音）はそれとして尊重しながら、強制的に立場を与えて、その立場から仮構的論理を構築させ討論を組織するという方略をたてることとした。

このような基本方針にもとづき、僻地小規模中学校、少人数学級における社会科授業で「社会的判断力」の育成を目指す学習過程を次のように構想してみることとした。

【学習過程】

1. 社会的論争問題の成立事情や問題状況の詳細把握。
2. 「争点」（問題点）の理解と確認。
3. 解決のための政策形成〈在り得る解決策＝選択肢の立案・提案〉。
4. 個々人及び集団（学習班）の選好的選択・判断とその合理性の表明。
5. 強いられた立場における〈選択肢〉に対する合理性の論理構築。
6. 構築された論理への集団（学習班）間の相互批判による吟味・補強。
7. 各解決策〈選択肢〉の評価と妥当な解決策の選択。
8. 学習のふり返り〈総括文〉。

2. 授業の実際

単元名 第3学年公民的分野

「暮らしとつながる政治～地方自治～」

単元設定の理由

本単元は、教育出版公民教科書の第2章「私たちの暮らしと民主政治」第2節「暮らしとつながる政治」の部分である。前節の「暮らしの中に生きる憲法」を受け、政治学習のまとめとして位置づけられている。

学習指導要領においては、内容「(3) 現代政の民主政治とこれからの社会」の「イ民主政治と政治参加」の前半部分、「地方自治の基本的な考え方を理解させる」に対応し、ここでは地方政治の仕組みや住民の権利や義務の理解を通して、「住民としての自治意識の基礎」を育てるとしている。また、内容の取り扱いにおいては、「調査や見学などを通して具体的に理解させること」に留意している。

現在、地方自治をとりまく環境は、高度情報化、少子高齢化、国際化などの社会変化を条件として急速に変貌している。2000年には「地方分権一括法案」が施行され、地方自治は新しい段階に入った。地方自治法が大幅に改正され、地方自治体の権限が拡大し、財政的自立が求め

られることとなった。つまり地方自治の本旨にもとづき、自らの問題を自主的・自立的に処理し、住民の福祉を確保すべき多岐にわたる課題を処理しなければならなくなった。

政府は「三位一体の改革」掲げ、国がもつ権限、財源を地方へ移譲することにより国の行政と財政のスリム化を図ると同時に、それを地方分権を促進することで、地方に肩代わりさせる政策を進めている。

政府（総務省）の説明によると、この「平成の大合併」で、全国3,200余りの市町村を1,000程度にまで減らすこと目指している。北海道でも多くの自治体において合併説明会等が実施され、具体的なパターンを示しながら合併協議会や住民投票が実施されている。

そのような中、本学のある幌延町も西天北四町（幌延町・豊富町・天塩町・中川町）の任意合併協議会が開かれ合併の道が模索された。しかし、本庁の設置場所や議員の定数や任期の問題で、話し合いがまとまらず任意合併協議会は平成16年6月30日に解散した。幌延町は単独の道でいくことになった。しかし、国からの地方交付税の削減、地方税収入の減少と大変厳しい状況である。現在約2,800人の人口が15年後に1,835人と1,000人以上減少することが予測されている。このままで、町として持続し行政サービスなどを維持できるのだろうか。将来改めて合併問題が浮上することは必至であろう。

本校で使用している教育出版公民教科書では、この「市町村合併」問題が学習内容として設定されていない。しかしこの問題は上述のような意義を有しており、中学3年生に是非学ばせたい問題である。

そこで、この問題を教科書の学習をふまえながら、身近な社会的論争問題として生徒に考えさせてことにより、それが近い将来自身に深くかかわる身近で切実な問題であることを理解させ、その解決方法を吟味させることを通して、自治意識を高め、地方自治の基本的な考え方や政治のしくみについて理解させ、同時に社会的判断力の育成を図ることを意図した。

その際、合併を進める必要があるのかを生徒なりの言葉で表現できるようにすることに留意して、また財政改革に関する問題を考えさせ、合併の大きな目標の一つである「地方の個性ある活性化、まちづくり」を自分自身の問題として捉えさせ、判断させるような活動に結び付けたいと考える。

目 標

- (1) 地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治に仕組みに関心を持たせ、住民の福祉を確保する国民生活上重要な機能を担っていること、議会制民主主義の基礎となっていることなどを理解させ、自分の住

んでいる地域への愛着と地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。

(2) 地方公共団体の政治や財政に関する様々な資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果をまとめたり、説明したりすることができるようにする。

学習計画 (全15時間)

1. 地方自治とは何か…………… 2 時間
2. 地方公共団体の政治と財政のしくみ…………… 2 時間
3. 住民自治とそのあり方…………… 2 時間
4. 地方自治の課題と「ありがた」…………… 1 時間
5. 地方自治と国の政治とのかかわり…………… 2 時間
6. 幌延町の町村合併を考える…………… 6 時間 (本報告)

授業「幌延町の町村合併を考える」の記録

分節	教材・資料	教師の発問・指示・説明・板書	生徒の学習活動・応答・学習内容
社会的論争問題の成立事情や問題状況の詳細把握	○新聞切り抜き「三位一体改革」「ひと目でわかる市町村合併」(『北海道新聞』平成16年11月17日及び11月29日付)	①市町村合併の話題を切り出す。 『12月1日に新函館市が誕生します。旧5市町村をワークシートに書きなさい』	①新聞記事を読んで、新函館市の旧5市町村をワークシートに記入する。
	○ワークシート ○「北海道のすがた」(全7頁/『中学校地理統計資料』とうほう、平成16年版) ○教科書 (pp.78-82)	②地図で確認させる。 ③5町村の人口や面積、産業を確認する。 ④『新聞記事を読んで、なぜ旧5町村は合併したのかをワークシートに書きなさい。時間は3分です』 ・教科書も参考にするよう指示。 ⑤生徒の発表を板書する。 板書しながら、③で読み取った情報を確認し、逐次市町村合併に至った背景を説明していく。対策にも言及する。 ⑥社会的背景を説明する。 ⑦政府の動きを説明。 ・財政危機を説明。 ・市町村合併特例法について説明。 《市町村合併問題》 社会的背景 人口流失・少子高齢化 ↓ 財政危機 ↓ 地方の振興・活性化 地方行政の簡素化・広域化 ↓ 地方権限拡大の必要 ※市町村合併特例法 ・平成17年3月までに合併すると財政優遇措置 ・全国約3,200の市町村を1,000に減らす 《ここまでの板書》	②地図で確認する。 ③「北海道のすがた」から5町村の町勢・村勢を読み取る。 ④新聞記事を読んで、なぜ今市町村合併するのかをワークシートに書く。 ・財政問題 ・人口減と少子高齢化問題 ・国の政策動向 ⑤ワークシートに書いた理由を発表する。 ⑥社会的背景を理解する。 ⑦政府の政策動向を理解する。 ・国の借金は400兆円、地方は300兆円、あわせて700兆円の借金であることを知り驚く。 ・また、地方への財源委譲、地方交付税の削減、補助金の削減を内容とする三位一体の改革が国の方針であることを知る。

社会的論争問題の成立事情や問題状況の詳細把握	○新聞切り抜き(『北海道新聞』平成16年11月12日付)	⑧北海道全体の動向を確認。 212市町村を98に減らす計画であることを知らせる。 ⑨新聞切り抜きをもとに留萌・宗谷管内の合併協議の動向を幌延町を中心に以下のように説明。 『留萌管内では、小平・留萌・増毛と、羽幌町・苫前町・初山別村の中部3町村、宗谷管内では歌登・枝幸が平成18年3月の合併を目指していました。幌延は、留萌、宗谷、上川と支庁を超えて幌延・天塩・豊富・中川の西天北4町が合併協議を行いました。このうち、留萌中部3町村(羽幌町・苫前町・初山別村)は法定協議会があったのですが、解散しました。どうして解散したのか理由が切り抜きに書いてありますので読んでみます。(略) 要するに新しい町の財政負担の不均等と役場の位置で合意ができなかったということのようです。では、幌延を含む西天北4町の合併問題はどのようなものか、実は結論を先にいいますと、合併協議会が解散しました。話し合いがつかみませんでした』	⑧212→98を確認。 ⑨幌延町を巡る合併がどうなっているのかわかる。
	○ワークシート(役場職員から説明を聞き市町村合併のメリット・デメリットをまとめる) ○ゲストティーチャー(幌延町役場総務課庶務係長S氏) ○説明資料「『市町村合併問題』～地方自治における地域の課題を知る～」(全10頁) ○説明資料「市町村合併どうする」(平成16年5月)〈内容:合併しなかった場合の幌延町の財政推移〉 ○『4町のあらまし』(4町任意合併協議会発行のパンフレット)	⑩『次の時間に、役場の人に来てもらって、幌延町が市町村合併を考えた理由とそれがどうしてうまくいかなかったのか、詳しく説明してもらいますの問題について話してもらおう予定です』	殆どの生徒は結果をすでに知っていた。
争点(問題点)の理解と確認	○ワークシート(役場職員から説明を聞き市町村合併のメリット・デメリットをまとめる) ○ゲストティーチャー(幌延町役場総務課庶務係長S氏) ○説明資料「『市町村合併問題』～地方自治における地域の課題を知る～」(全10頁) ○説明資料「市町村合併どうする」(平成16年5月)〈内容:合併しなかった場合の幌延町の財政推移〉 ○『4町のあらまし』(4町任意合併協議会発行のパンフレット)	①資料にもつて役場職員から市町村合併問題を説明。 説明内容の概要は以下の通り。 ・なぜ合併なのか-5つの理由 1.少子高齢化 2.地方分権の推進 3.生活圏の広域化への対応 4.多様化する住民ニーズへの対応 5.財政状況の悪化による効率性の向上 ・市町村合併のメリットとデメリット 〈メリット〉 1 住民の利便性が向上 2 サービスの高度化・多様化による行政水準の向上 3 重点的な投資による基盤整備の推進 4 広域的な観点でのまちづくりの推進	①役場職員からの市町村合併問題の説明を聞きワークシートにメモをする。 各メリット、デメリットについて、具体的に理解する。 〈メリット〉 1 住民の利便性の向上(既存の文化施設・スポーツ施設の相互利用の拡大) 2 サービスの高度化・多様化による行政水準の向上(専門的かつ高度な能力を有する職員の採用) 3 重点的な投資による基盤整備が可能(財政規模が大きくなるから、総合的なスポーツ施設や図書館などいろいろ施設を一つに集中した建物をつくるなど、規模の大きな事業や重点的な投資が可能なる) 4 広域的な観点でのまちづくりの推進(たとえば 中川町にエコ・ミュー

争 点 (問 題 点) の 理 解 と 確 認

解 決 の た め の 政 策 形 成 (在 り 得 る 解 決 策) 選 択 肢 の 立 案 ・ 提 案

<p>5 行政運営の効率化による財政基盤の強化</p>	<p>ジウムセンターがあり、廃校した学校を利用してアンモナイトなどの化石などを展示しているため、中川町は自然を担当、天塩町は海なので海のことを重点的に考える、豊富町は温泉があるので温泉を重点的に、幌延町は、核燃のサイクル機構、地圏環境研究所施設が建ったのでそのことを中心にというよう、そういうと4町各々の特徴を生かして広い視野で町づくりを進める)</p>
<p>6 地域のイメージアップによる活力の強化(各地域の産業を組織して新産業創出の可能性)</p>	<p>6 地域イメージアップによる活性化の強化</p>
<p><デメリット> 1 行政サービスの低下 2 活性化の偏在 3 歴史・文化・伝統への愛着や地域の連帯感の希薄化 4 財政負担の増大</p> <p><合併協議会は解散の経過> ・5回協議会が行われた。 ・財政 新しい町の町名、役場の所在地など資料を出し合い、真剣に協議したが、答えを出せなかった。</p> <p>②生徒の質問・意見に答える。</p> <p>『役場をどこにおくか、それと議員さんの人数をどうするのか。各町村10人、12人、14人、14人と全部で40数人になるけど、この議員定数をどうするのか、といった点がまとまりきらなかった。自分の町に役場をおきたいとだれもが思うことです。それから、さっき話しました歴史がなくなる、さびれてしまう、という点も理由とあります』</p> <p>『それをいま、校長先生を含めて町民あけて、話しあっているところですよ。自立するためにこんなことが必要だよ。役場の方で提案するより、皆から声をあげてもらって話し合いましょう、という風にしていきます。もうすぐ、3月までに、計画をつくる予定です。それで今は目にするにはできません』</p>	<p><デメリット> 1 行政の広域化により、きめ細くぬくもりのある行政が困難になる可能性 2 中心部だけでなく周辺部がさびれる可能性 3 (同 左)</p> <p>4 旧市町村間の格差は正に伴う財政負担増</p> <p>②質問する。</p> <p>Y子：合併協議会が解散した、一番大きな原因は何ですか。</p> <p>M子：幌延町が自立していくのに具体的な計画はしているのですか。</p>
<p>①生徒の選好を問う(予備判断) 『前の時間に役場のFさんの話を聞きましたが、とりあえず今の時点で、幌延町の町村合併について賛成か反対か、その理由を考えてみてください』</p> <p>幌延町の合併 賛成 0名 反対 7名 (板書)</p> <p>②今後の幌延町の町勢推移を知らせ、将来的には合併が必然的であることを理解させ、その際にどのような合併プランが考えられるか提案を考えさせる。</p>	<p>①合併の賛否を考える。 賛否と自分の意見を発表する。</p> <p>(理由) ・伝統がなくなる。 ・幌延町の名前がなくなるのが淋しい。 ・中心部と周辺部に差ができるから。 ・幌延町だけでやっていけるのだったら無理して合併しなくてもいい。</p> <p>②15年後の幌延町の姿を知る。</p>

<p>◎15年後の幌延町</p> <p><現在> 人口2,843人 財政 歳入45億円 歳出45億円 収支 0円</p> <p><平成32年> 人口1,783人 財政 歳入27億9千万円 歳出32億2千万円 収支4億3千万円の赤字</p> <p>(教材提示器で提示)</p>	<p>『合併反対という旨の気持ちにはよく判りますが、しかし、今後の幌延町の変化を考えると、合併を考えざるを得ない時期が必ずきます。そのことを考えて見ましょう』</p> <p>・15年後の幌延町の姿を提示し、単独でいくことの厳しさを説明する。</p> <p>・前次に配布した西天北4町任意合併協議会発行のパンフを一度確認する。</p> <p>③あり得る合併プランを考えさせる。 『このようにいづれ幌延町は合併しないとなりません。では、幌延町が生き残るためには、どの町を合併するのがよいでしょうか。考えられる合併プランを皆で検討して見ましょう』</p> <p>・道が示した人口一人万人をめどとした合併プランを示し、各町のデータを示し、各プランの特徴を説明する。</p> <p>Aプラン： 天塩・幌延・豊富 Bプラン： 天塩・幌延・中川 Cプラン： 幌延・中川・豊富 (板書)</p>	<p>・15年後の幌延の人口と財政を知る。 ・「人口が1,783人に減る」 ・「マイナス4億円! やっていけないじゃん」</p> <p>・幌延町の平成32年の人口が1,833人。 ・4町の任意合併協議会の理由を確認し、協議会議員の定数及び任期について本庁の場所について、議論が紛糾し解散。</p> <p>・合併の必然性、切実性を知る。</p> <p>③合併プランを検討する。</p>																																																		
<p>◎4町の人口データ</p> <p>・西天北4町任意協議会のホームページ及びそのプリント</p> <p>・4町人口推移データ(国勢調査及び財団法人統計情報開発センター推計)</p> <p>・「北海道のすがた」(前出)</p> <p><天北四町の人口推移と平成16年現在の貯金・借金額></p> <table border="1" data-bbox="877 1344 1181 1478"> <thead> <tr> <th></th> <th>豊富町</th> <th>天塩町</th> <th>中川町</th> <th>幌延町</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成7年</td> <td>5,504</td> <td>4,931</td> <td>2,602</td> <td>3,095</td> </tr> <tr> <td>平成17年</td> <td>4,924</td> <td>4,153</td> <td>2,308</td> <td>2,563</td> </tr> <tr> <td>平成32年</td> <td>3,969</td> <td>3,021</td> <td>1,779</td> <td>1,783</td> </tr> <tr> <td>貯金</td> <td>8億</td> <td>24億</td> <td>15億</td> <td>25億</td> </tr> <tr> <td>借金</td> <td>100億</td> <td>89億</td> <td>55億</td> <td>49億</td> </tr> </tbody> </table> <p><合併後した場合の財政と人口ー平成17年ー></p> <table border="1" data-bbox="877 1500 1181 1657"> <thead> <tr> <th></th> <th>貯金</th> <th>借金</th> <th>赤字</th> <th>人口</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aプラン： 天塩・幌延・豊富</td> <td>57億</td> <td>238億</td> <td>-181億</td> <td>11,640</td> </tr> <tr> <td>Bプラン： 天塩・幌延・中川</td> <td>64億</td> <td>193億</td> <td>-129億</td> <td>9,024</td> </tr> <tr> <td>Cプラン： 幌延・中川・豊富</td> <td>48億</td> <td>204億</td> <td>-156億</td> <td>9,795</td> </tr> </tbody> </table>		豊富町	天塩町	中川町	幌延町	平成7年	5,504	4,931	2,602	3,095	平成17年	4,924	4,153	2,308	2,563	平成32年	3,969	3,021	1,779	1,783	貯金	8億	24億	15億	25億	借金	100億	89億	55億	49億		貯金	借金	赤字	人口	Aプラン： 天塩・幌延・豊富	57億	238億	-181億	11,640	Bプラン： 天塩・幌延・中川	64億	193億	-129億	9,024	Cプラン： 幌延・中川・豊富	48億	204億	-156億	9,795	<p>・現在の4町のデータと概要を提示し、4町の概要、人口推移シミュレーションなどを説明し、各3町が合併した場合の町勢をイメージさせる。</p> <p>・道が示した人口一人万人をめどとした合併プランを示し、各町のデータを示し、各プランの特徴を説明する。</p> <p>豊富町：遥か大雪を望む天塩岳を源とし、日本海に注ぐ大河「天塩川」の河口にある。河口には地方港湾があり、市街地は、天塩川河口周辺に形成されている。町の基幹産業は酪農業で、乳牛は1万5千頭を数え、年間5万3千トンの牛乳を生産している。またまちのシンボルであるシジミ貝は味と粒の大きさでは日本一。</p> <p>中川町：クビナガリュウやアンモナイトなどの「化石の里」として有名。</p> <p>幌延町：豊富と同じくサロベツ原野があり酪農業が盛ん。「トナカイ牧場」がある。</p> <p>・人口推移、各町の現在の貯金・借金額(揭示)を確認。</p>	<p>・4町の現勢(面積,人口,世帯数,財政)を確認する 天塩町：遥か大雪を望む天塩岳を源とし、日本海に注ぐ大河「天塩川」の河口にある。河口には地方港湾があり、市街地は、天塩川河口周辺に形成されている。町の基幹産業は酪農業で、乳牛は1万5千頭を数え、年間5万3千トンの牛乳を生産している。またまちのシンボルであるシジミ貝は味と粒の大きさでは日本一。</p> <p>中川町：クビナガリュウやアンモナイトなどの「化石の里」として有名。</p> <p>幌延町：豊富と同じくサロベツ原野があり酪農業が盛ん。「トナカイ牧場」がある。</p> <p>・人口推移、各町の現在の貯金・借金額(揭示)を確認。</p>
	豊富町	天塩町	中川町	幌延町																																																
平成7年	5,504	4,931	2,602	3,095																																																
平成17年	4,924	4,153	2,308	2,563																																																
平成32年	3,969	3,021	1,779	1,783																																																
貯金	8億	24億	15億	25億																																																
借金	100億	89億	55億	49億																																																
	貯金	借金	赤字	人口																																																
Aプラン： 天塩・幌延・豊富	57億	238億	-181億	11,640																																																
Bプラン： 天塩・幌延・中川	64億	193億	-129億	9,024																																																
Cプラン： 幌延・中川・豊富	48億	204億	-156億	9,795																																																
<p>◎ワーク・シート 個人の選択 班の選択</p>	<p>①個人レベルの選択・決定。 『自分の支持するプランを選択し、その良いところを3つ記入しなさい』</p> <p>②班レベルの選択・決定(班討論) (班は3班)</p> <p>『市町村合併した場合の自分の班のプランのよさを3つあげなさい』</p>	<p>どのプランを支持するか考える。</p> <p>①個人の選択を記入する。</p> <p>②自分の合併プランのよさを考える。</p> <p>全ての班がCプランを選択。</p>																																																		

<p>強い立場における「選択肢」に対する合理性の論理構</p>	<p>◎ワーク・シート</p> <p>①支持するプランを指定してそのプランのメリットを考えさせる。</p> <p>プランAは T男・S子の班 プランBは N子・E子の班 プランCは A子・Y子・K男の班</p> <p>『自分の判断とは別に、いま決めた立場で、そのプランがよいとする理由を班でまとめてください』</p> <p>『グループの話し合いに移るのですが、観光のことか産業のことかキーワードとなる言葉を使ってください。財政問題、役場職員の数などデータにもとづいた主張を各班でまとめてください。画用紙に書いてください』</p> <p>・机間巡視をしながら議論にアドバイスや指導をいれる。 一幌延町が市町村合併の切実性を振り返えさせる（財政問題、人口問題など）</p> <p>②各班の意見を発表させる。</p> <p>・生徒には予め配布したワークシートに、理由（合併のメリットを根拠）を書かせ、それを発表させる。</p> <p>③（財政への着目が弱いと判断して）4町の財政問題を考えさせる。</p> <p>・4町の貯金と借金とを再確認。</p>	<p>①資料を見直し、分担したプランのメリットを考える。</p> <p>C班 Y子：汽車って天塩通っている A子：通ってない Y子：幌延・中川・豊富は汽車を使った観光ができるね</p> <p>B班 E子：しじみと化石とトナカイを合わせる N子：なるほどね。カヌーとかもあるね E子：天塩川が使えそうだね N子：天塩川でカヌー</p> <p>②自分のプランの根拠を明確化し発表。</p> <p>A班（天塩・幌延・豊富） 1 一番人口が増えているので、サービスの高度化・多様化につながっている 2 豊富にある陸上競技場が使える 3 酪農がさかん</p> <p>B班（天塩・幌延・中川） 1 「しじみ」と「化石」と「トナカイ」をミックスして新しい特産物をつくる 2 3町で共通の天塩川で観光客をゲット 3 3町が近い</p> <p>C班（幌延・中川・豊富） 1 豊富・中川・幌延には汽車が通っているので観光しやすい 2 中川は化石、豊富は温泉、幌延はトナカイをテーマとして客を集める 3 豊富・中川・幌延には汽車が通っているため観光しやすい。中川は化石、豊富は温泉、幌延はトナカイをテーマとして客を集める</p> <p>③財政問題を考えたメリットも考える。</p> <p>A班 歳入が一番多い B班 借金が一番少ない C班 町民一人あたりの貯金1, 2位の町がある</p>	<p>構築された論理への集団（学習班）間の相互批判による吟味・補強</p>	<p>①各プランの合理性（メリット）を吟味させる。</p> <p>・他のプランへの疑問点を考えさせ、相互の応答を通して自プランを補強しつつ、自プランが一番優れていることを主張させる。</p> <p>『各班で、自分たち以外のプランのメリットに対する疑問点や問題点を考えてください。本当にそのようなメリットが成立するのかという視点で考えてください』</p> <p>『先ず個人で考えてください。各々の班に3つずつです。5分です』</p> <p>『各班で、残りの2班に対して3つずつ質問、疑問を考えてください。意見をまとめて、画用紙に書いて発表してください』</p> <p>②画用紙を黒板に貼って、発表させる。</p> <p>『プランAから各班に質問してください。最初はA班です』</p> <p>『質問に答えることができる場合は答えてください』</p>	<p>①自分の班以外の質問、疑問をそれぞれ3個ずつ書く。</p> <p>・個人で考える。5分 ・グループで考える。5分</p> <p>○A班からB班、C班への質疑 プランBメリット① なし プランBメリット② どんなことをして観光客をゲットするんですか。 プランBメリット③ 豊富・天塩・幌延も近い。 プランBメリット④ 借金も少ないけど、歳入もすくない。</p> <p>プランCメリット① どんなものを観光するんですか。汽車から見えますか。 プランCメリット②（なし） プランCメリット③ 本庁における可能性は大きいかもしれないけど100%ではない。 プランCメリット④ 1人あたりの貯金が多いからどうなるんですか。</p> <p>・Y子（プランC①）観光のことで、私たちが観光でいっているのは、汽車から景色を見るのではなくて、汽車が通っているからいるんな人が、観光地へこられることを考えている。交通の便のことです。下にかいてように、幌延はトナカイ、中川は化石、豊富は温泉で観光客を集めることにしました。宿泊施設やトナカイ観光牧場などをあわせた総合的な観光をめざしています。</p> <p>・K子（プランB①）観光客をゲットするのは、カヌーなどのツアーを組んで、観光客をゲットします。</p> <p>○B班からC班、A班への質疑 プランCメリット① 何を観光するんですか。 プランCメリット②（なし） プランCメリット③ 幌延町に本庁をおいた場合、他の2町が廃れないために何をしますか。 プランCメリット④ プランBのほうが町民一人あたりの貯金が多いのではないかと。</p> <p>プランAメリット①（なし） プランAメリット② 陸上競技場は合併しなくても使えらると思います。 プランAメリット③ 酪農がさかんだからといって何かいいことがあるんですか。 プランAメリット④（合併すると）歳入が一番多くなるが、歳出も多くなる。また借金も1番多くなる。人口も多くなるので歳出を減らすことができない。</p> <p>・Y子（プランC③）町民一人あたりの借金がおおいは、Bプランではないか。 （プランC②）プランAもブ</p>													
	<p>黒板</p> <table border="1"> <tr> <td>57億 238億 -181億</td> <td>64億 198億 -129億</td> <td>48億 202億 -156億</td> </tr> <tr> <td>〔プランA〕 天塩・幌延・豊富</td> <td>〔プランB〕 天塩・幌延・中川</td> <td>〔プランC〕 幌延・中川・豊富</td> </tr> <tr> <td>一番人口が増えるのでサービスの高度化・多様化につながる</td> <td>「しじみ」と「化石」と「トナカイ」でアピールできるものはバラバラだけど、そこをミックスして新しい特産物を作る</td> <td>幌延・中川・豊富には汽車が通っているため観光しやすい</td> </tr> <tr> <td>豊富にある陸上競技場が使えるようになる</td> <td>3町で共通している天塩川で観光客をゲット!!</td> <td>中川は化石、豊富は温泉、幌延はトナカイをテーマに客を集める</td> </tr> <tr> <td>酪農が盛ん</td> <td>3町が近い</td> <td>幌延に本庁をおける可能性が大きい</td> </tr> <tr> <td>歳入が一番多い</td> <td>借金が一番少ない</td> <td>町民一人あたりの貯金が一番多い</td> </tr> </table>	57億 238億 -181億		64億 198億 -129億	48億 202億 -156億	〔プランA〕 天塩・幌延・豊富	〔プランB〕 天塩・幌延・中川	〔プランC〕 幌延・中川・豊富	一番人口が増えるのでサービスの高度化・多様化につながる	「しじみ」と「化石」と「トナカイ」でアピールできるものはバラバラだけど、そこをミックスして新しい特産物を作る	幌延・中川・豊富には汽車が通っているため観光しやすい	豊富にある陸上競技場が使えるようになる	3町で共通している天塩川で観光客をゲット!!	中川は化石、豊富は温泉、幌延はトナカイをテーマに客を集める	酪農が盛ん	3町が近い	幌延に本庁をおける可能性が大きい	歳入が一番多い
57億 238億 -181億	64億 198億 -129億	48億 202億 -156億																
〔プランA〕 天塩・幌延・豊富	〔プランB〕 天塩・幌延・中川	〔プランC〕 幌延・中川・豊富																
一番人口が増えるのでサービスの高度化・多様化につながる	「しじみ」と「化石」と「トナカイ」でアピールできるものはバラバラだけど、そこをミックスして新しい特産物を作る	幌延・中川・豊富には汽車が通っているため観光しやすい																
豊富にある陸上競技場が使えるようになる	3町で共通している天塩川で観光客をゲット!!	中川は化石、豊富は温泉、幌延はトナカイをテーマに客を集める																
酪農が盛ん	3町が近い	幌延に本庁をおける可能性が大きい																
歳入が一番多い	借金が一番少ない	町民一人あたりの貯金が一番多い																

<p>構築された論理への集団（学習班）間の相互批判による吟味・補強</p>	<p>ランBもどこかに本庁をおくのだから、このまちだけの問題ではない。 (プランC①)なにを観光するかは、さっきもいったけど、トナカイ、化石、温泉を使った観光である。 ・S子(プランA①)陸上競技場は今でも使えるかもしれないが、合併した方が料金がやすくなり使いやすくなる。 (プランA②)酪農が盛んだと、酪農で入ってくるお金があると思うし、酪農をテーマにして町おこしができるのではないかと。いろいろ考えられます。 (プランA③)農人が多いというんなどができる。そのお金で何とかして借金を返すことができると思う。これから考えていきたい。</p> <p>○C班からA班、B班への質疑 プランAメリット①(なし) プランAメリット② プランCでも陸上競技場は使える。 プランAメリット③(なし) プランAメリット④(B班と同じ)</p> <p>プランBメリット①「シジミ」と「化石」と「トナカイ」をミックスしてどんなものをつくるのか。 プランBメリット②(なし) プランBメリット③(A班と同じ)</p> <p>・S子(A→C):プランAメリット①ですが、豊富町が入っているから、そっち(プランC)も入っているけど、料金がやすくなる、農産物が出れば、多くの(人)役場職員)を雇える。それだけ能力ある人をたくさんの中から選ばせ、行政サービスが向上します。</p> <p>・F子(B→C):プランB①は、シジミとトナカイを缶詰にして、化石ばさを出します。開発チームをつくり開発します。</p>	<p>③次時に反論をさせることを告げ、そのためにこれまでの資料やインターネット等で、自分の班の理由や他班への疑問を補強する情報を調べて、ワーク・シートに書いてくるよう指示。</p>	<p>相互批判による吟味・補強</p> <p>②T教諭にメリットが一番いいものを判定してもらう(5分) ③再度、個々人でプランを選択させる。</p>	<p>カヌー・ツアーやカヌー・レースを企画する。 天塩川を生かしたイベントで観光客を呼ぶ。 3.3町が近い 4.借金が一番少ない 市町村合併の一番の理由は財政問題だから、借金が少ないというメリットは重要です。</p> <p>プランC(幌延・中川・豊富) 1.豊富・中川・幌延には車が通っているので観光しやすい。 JRの特急列車が上下8本、天塩中川駅から札幌まで、3時間半は、観光の強みです。しかも特急が3町全部の駅に止まります。また釧路湿原でやっている「ノロッコ号」みたいなのをサロベツ原野にも走らせることも考えられます。 2.観光客を集めることができる観光テーマが多い。 中川は化石、豊富は温泉、幌延はトナカイをテーマとして客を集める。 3.幌延に本庁をおける可能性が高い 3町の中では幌延町が一番大きな町なので私たちの地元の本庁を置ける可能性が高い。 4.町民一人あたりの貯金が、(3つのプランの中では)一番多いので、豊かな町になる。</p>
<p>相互批判による吟味・補強</p>	<p>※教室の壁にはこれまで出された意見を書いて画用紙が班別に貼ってある。</p> <p>①前時で出された質疑への反論も含めて補強された各班のメリットを主張する。 ・各班の発表をさせる。 『発表してもらいます』</p>	<p>①自分のプランの根拠を質問、批判されたことを補ってプランのメリットを主張する。</p> <p>プランA(天塩・幌延・豊富) 1.一番人口が増えるので、サービスの高度化・多様化につながっている。 2.豊富にある陸上競技場が使えるようになる。 3.酪農がさかん 酪農業が拡大する。幌延には北海道で一番大きい雪印工場があるし、豊富町は、酪農家戸数200戸で乳牛15,900頭、肉用牛1,300頭を飼養して、人口の約3.4倍の牛がいる町です。 農業生産額は、中川は15億円、天塩48億円、幌延40億円、豊富63億円で、生産額の多い3町が合併すると酪農を中心とした町づくりができます。 4.農産物が多い 農産物が多いということは、農産物も大きいけど、これは動かせるお金が多いということだから、工夫しただけで借金を返済できるということです。また、幌延には「核燃料サイクル機構幌延深地層研究センター」がありそこからの税金が入るので財政が安定します。</p> <p>プランB(天塩・幌延・中川) 1.「しじみ」と「化石」と「トナカイ」でアピールできるのは、バラバラだけどそこをミックスして新しい特産物をつくり、中川と天塩の「道の駅」で販売する。 2.3町で共通している天塩川で観光客をゲット!</p>	<p>生徒の総括文</p> <p>●五十嵐灯(I・A/女)</p> <p>普通の授業と違って意見を考えて発表して、他のプランに意見をいったり、反論したり、楽しかったです。だけど調べる時間が短く、内容も難しいように思いました。</p> <p>自分の考えの時に私は反対で、幌延はまあ大丈夫だと言ったけど、実際私が大きくなる頃には幌延は赤字と聞いてびっくりしました。</p> <p>私は最初からプランCがいいと思っていました。やはり本庁をおける可能性を考えてでした。しかし、プランCは財政面では難しかったです。しかし、観光面では車が通っていてノロッコ号もありました。しかし、Y子にすごく助けられたと思いました。</p> <p>私が大人になった時に合併の話は出ているかも知れませんが、よく今の状況やメリット・デメリットを考えずに賛成・反対をするのはいけないと授業を通して知りました。家でも授業の話をしました。やはり今の財政で反対とは言えないかもね、と母と話しました。私は授業を通して、幌延がなくなるには嫌だけど、考えると合併してもいいのではと考えるようになりました。</p> <p>●小林沙紀(K・S/女)</p> <p>今回の授業は普通の授業とちがって、自分が発表したり、質問したりすることが多かったので、緊張しました。だけど、藤井さんの話など聞いてよかったです。</p> <p>私は、Aプランでした。でもこのプランを選んだ理由</p>	

がなかなか思いうかばなくて、結構先生にたよってしまった気がします。どうにか3つの理由が決まったけど、他のプランからどんな反論や質問がくるのか、その反論や質問にしっかり答えられるのかとても不安でした。あまり調べられず、こたえがあいまいになってしまったところもあったけど、どうにかできたのでよかったです。

みんな最後の判断をした時に、私も含めてCプランの人がほとんどでした。自分が考えたプランAが誰もいなかったのはちょっとショックだったけど、真剣に考えた時、やっぱり幌延町に本庁を置ける可能性が高いプランCなのかなと思います。

どんなプランでも、今私たちが住んでいる幌延町が、もっとすみやすく、もっと良い町になるように考えていけないといけないんだと思いました。

●伊藤 唯 (I・Y/女)

私は、今回初めて合併について深く考えましたと思います。合併なんて私には関係ないことだと思っていたし、幌延町が今どんな状態なのか知りませんでした。また、また、合併することによって生まれるメリットやデメリットなども全然わかっていませんでした。今回は藤井さんにお話を聞いたり、グループで話し合ったりして、前よりはすごく合併について関心を持つことができました。

グループの話し合いでは、幌延・中川・豊富な合併プランCだったのですが、その合併にもたくさんのメリット、デメリットがありました。交通のことや、観光のこと、人口のことや財政のことなど、私たちでこれだけ考えるのが大変だったということは、現実に考えていた議員の人たちは、もっと大変だったと思います。でも、話し合いのおかげで、4町にはそれぞれどんな特徴があるのか少しは、わかることができました。

今回 幌延町は合併せずに自立プランを立てましたが、いずれかは幌延町も合併しなければならないと思います。私の住んでいる町が他と合併して名前が変わってしまったりするのはいやです。

私は合併問題について真剣に考える機会があってよかったです。これからも、この問題にしっかり向き合っていきたいです。

●芳野恵里 (Y・E/女)

今回、市町村合併のことを勉強して、いままであまりこういう授業をしたことがなかったので、ちゃんとついていけるか不安でした。初めに私が選んだのは、プランCでした。絶対にこれしかないと思いました。でも本当の自分の考えとは違うプランについて考えることになり、このプランの良いところを見つけられるか、ますま

す不安になりました。

M子と一緒に、幌延、天塩、中川のプランBも良いところを見つけ出していき、共通するところや、メリットなど、なかなか見つけられなくて大変でした。他のグループへの反論や質問は、する方も、される方も難しいと思いました。一生懸命考えて出した案が反論や質問がでたことによって、それが本当にメリットなのか、他のプランの方が当てはまるのではないかなど、より深く考えられました。どのプランが一番良いのかが、本当にわからなくなりました。先生のアドバイスをもらって考えた反論・質問に対する答えは何とかまとめることができ良かったです。最後に個人でプランを選んだ時、私だけプランBで、正直さびしかったです。

けれど今回、プランBで考えていくうちに、もし新しい町としてやっていくなら結構良いのではないかなあと考えていました。でも、やはり本庁が幌延になる可能性が高いプランCにはひかれました。

市町村合併のことは、授業でやらなかったら、本当に全然わかっていなかったし、深く考えることもなかったと思います。先生もいっていたように、私達が大人になるころには合併しているかも知れないし、そんな話が出ているかも知れません。その時今回の授業が生かされ自分の意見がしっかり持てる人になれば良いと思います。市町村合併はと遠いように感じたけれども、実は身近なことだと実感しました。

●新屋貴裕 (S・T/男)

今日の市町村合併のことについてやって、この授業は自分たちだけでは話し合いと、まったくいつもとちがう授業でした。

初めはプランCを選んだけど、どの班もプランCがよく、けっきょくプランAになっけど(担当)、弱点も少しはあったけど、その弱点も工夫しだいで大きく変わるんだと思いました。他のプランへの質問では質問することがあまり思いつかなかったけどしっかりまとめられたし、自分のプランに質問されて答えること自分であまり反論はできませんでした。

これからずっと合併しないでいたら、これからの未来は暗くなってしまうのでできるだけ早く合併できたらいいと思います。

そしてこれから幌延町がもっと豊になって人口ももっと増えて、もっと大きな町になって欲しいと思いました。

これからも大変なことはあるかもしれないが頑張りたいと思います。

●板垣希美 (I・N/女)

市町村合併の授業は、いつもの授業みたいに先生が教

えてくれることを覚えるんじゃないくて、自分たちで考えて発表する授業で初めは少し難しかったです。

私は最初にプランCを選んだけど、その時はこのプランに天塩が入っていないという理由で選びました。班に分かれて、私はプランBで考えることになり、最初は天塩・豊富・中川・幌延の共通しているところが全然見つけることができませんでした。各プランを発表して天塩・豊富・中川・幌延のことで知らなかったことがたくさんありました。今回の授業で前よりも、いろんなことを知ることができたし、市町村合併の授業は楽しかったです。

私は、最終的にはプランCを選んで、やはり自分の町に本庁を置きたいと思いました。幌延が廃れてしまうのはいやだなと思いました。

私はあまり市町村合併のことを考えたことはなかったので、今回の授業は自分の町のことを考えるととても良い機会だったと思います。

おわりに 考察と今後の課題にかえて

本授業は、鈴木の前任教である幌延町立問寒別小中学校で、平成16年11月に行われた。生徒数7名の学級である。授業後の感想文にもあるように、町村合併というハードな課題にそれなりに前向きに取り組み、自分たちの町の将来について真摯に考えを巡らせてくれたと観察できる。各自の意見表明とそれを批判する活動は経験の浅い活動であり、議論が授業者が意図した通りには深まらなかったが、組織的な議論を行う技能取得の初期的経験を踏ませた点は評価してもよいと考える。

授業は、町村合併に関わる知識・情報を生徒が理解する点で弱点があり、そのことが最後まで影響した。特に争点（issue）内容の理解と確認が不十分で、財政問題や行政サービス、広域行政などこの問題の核心部分の論点が生徒に殆ど理解されておらず、そのことが議論の水準が低空飛行になった大きな原因となった。学習過程として予定していた「7. 各解決策〈選択肢〉の評価と妥当な解決策の選択」を実施できなかったのもここに起因していよう。

しかしながら、小規模学級における社会的論争問題の学習過程として提起した仮説は有効であろうとの考えは捨てる必要はないと考えており、具体的事例を豊富に提供するなどの改善を施し、争点理解の教授学的工夫を進めるとともに、組織的な議論を行う技能取得をはかりながら、今後とも仮説の検証を進めて行く必要がある。

最後の本稿の文責関係を示しておく。はじめに、1. おわりに、は安藤、2. は鈴木の原文を安藤が大幅に改訂した。